

小川涉 （たかはし） 歴史家。天保十四年七月二十一日陸奥國會津（白新館宮房）生れ、明治四十年一月五日歿（八四三—一九〇七）。講席短、幼名徳次郎、涉は通稱。疏外浦、雪佛。白新館公學び、のち江戸で昌平坂學問所に入る。戊辰時東海道探偵を命ぜられるなど奔走。事終り新潟に赴き、明治二年六月までオランダ人カステルの家に潜居、蘭學及び英學を學ぶ。また西洋事情研究の傍らイギリス人アーネスト・サトーの日本語を授業。當時今井兼介の變名を使いつゝたといふ。廢藩後は青森縣に出仕、八年辭して北斗新聞社を興して社主となる一方、青森縣會書記を務めた。二十一年會津に歸り、『會津藩教育考』等の著述に従事。

他の歴史隨筆『志々礼草紙』（昭和十年九月二十八日飯沼關彌刊）がある。

